

令和 7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立姫里小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価は概ね妥当である。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【安心・安全な教育の推進】 評価C

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は75.4%であり、目標よりも9.4%下回る結果となった。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は73%であり、目標よりも4%下回る結果となった。
- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は77.7%であり、0.3%下回る結果となった。
- 「心の天気」を活用したり、児童の様子を観察したりすることで、児童の心の状態を把握するようになってきた。児童からの相談や児童同士のトラブルにはすぐに対応をし、解決するようにして、深刻ないじめに発展しないように努めた。いじめ事案については、毎月の生活指導連絡会で報告し、教職員全体で共通理解することができるように努めた。
- 「いじめについて考える日」を年3回実施し、児童一人ひとりが改めて日々の行動について振り返る機会を設けることができた。
- いじめアンケートは、計画通りに実施できており、いじめられたと回答した児童には聞き取りを行い、解決できるよう取り組んだ。
- 学校アンケート「友だちを大切にできている」の項目で、肯定的回答の割合が98.1%で目標を達成することができている。
- たてわり班で活動する児童集会やひめっ子まつりなど、異学年で交流する機会がこれまでにたくさんあった。ペア、班どちらとも活動することで、異学年で関わる機会をより多く設けることができ、児童どうしが協力して活動することができた。
- 学級においても、ペアトークやグループ交流、係活動を通して、協力して活動する機会を様々な場面で設け、取り組むことができた。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】 評価C

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比は、6年-0.04、5年+0.13、4年+0.13で、目標を達成できない学年があった。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は64.2%で、目標を1.8%下回る結果となった。

- 本年度は、「書く力」と「語彙力」の向上を重点目標として、国語科を中心に指導の充実を図った。パソコンやワークシートを活用した文章作成、一行日記の継続、単元導入時の国語辞典による意味調べなどに取り組み、基礎的な語彙力の定着と文章構成力の向上を図った。その結果、自分の考えを書き、その後ペアや全体で交流する学習過程を取り入れることで、自分の意見に自信をもって発表できる児童が増えた。研究授業や教材研究を通して、学年全体で指導力向上にも努めることができた。
一方で、学力経年調査では一部学年において授業理解に関する肯定的回答が目標を下回る結果となった。書く力は徐々に伸びているものの、児童が十分に「わかる」と実感できる授業づくりには、さらなる工夫が必要であることが明らかになった。
- 学力経年調査の児童アンケート「国語の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答は、6年 90.6%、5年 81.7%、4年 80.6%、3年 77.1%で、いずれの学年も 80%以上にするという目標を達成できなかった。
- 5月に1回、11月に1回、1月に1回と体力向上週間を設け、体力づくりに取り組んできた。それぞれの週間でがんばりカードを作成し、児童が意欲的に取り組みに参加できるようにしてきた。カードを作ったことで、積極的に運動場へ出て体を動かす児童が多くなった。
- 11月に実施したなわとび週間では、高学年の児童が跳び方を紹介したことで、新しい技に挑戦しようとする児童も増えた。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】 評価 A

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75.2%以上で、目標の75%を上回ることができた。
- 時間外勤務時間が45時間以下の教員の割合は87.1%で、目標の82%を上回っており、年度目標を達成することができた。
- 心の天気、らっこたん、デジタルドリル等で学習者用端末を活用したことで、児童の8割以上が端末を活用した日数が、授業日の75.2%と目標を上回ることができた。
- タイピング大会を実施したことで、タイピングに意欲的に取り組む児童が増えた。
- 学校アンケート「学習者用端末を使っている」に対する肯定的な回答をする児童の割合が、75.1%と目標を下回った。指標の割合が達成できない要因として、アンケートの文言に「毎日、学習で」とあるので、学習での意味のとらえ方に違いが生じ、肯定的な割合が増えなかったと考える。
- 長期休業前後に5時間授業の日を設定したことで、業務に取り組める時間を確保することができた。
- 二学期制の導入により、7月・12月の通知表作成がなくなり、業務負担が減ったため、ゆとりある働き方につながった。また、特別授業や社会見学、5年生林間学習の取り組みなど、学習活動を充実させることができた。さらに、学習内容を幅広く見ることができたことで、児童一人ひとりをじっくりと評価することができた。
- 会議の日程が偏りなく設定されており、計画的に一週間の業務に取り組むことができた。
- 会議や研修のため、休憩時間の確保が困難な場面もあった。
- 時間外勤務時間が45時間以下の教員の割合は毎月85%を上回っており、指標を達成することができた。

3 今後の学校園の運営についての意見

目標の数値に達しなかったため、C評価となった項目はあるものの、取り組み内容については十分な成果をあげていただいている。次年度以降も継続して取り組んでいただきたい。